

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域そしてホームの名前となっている“ならわ”を一文字ずつ頭文字とした理念をつくりあげている。 “なごやかで らんらん楽しい わたしのホーム”		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	分かりやすい理念とし、また見やすい位置に張り出していることで共有している。また、職員採用時には理念の意味を説明している。職員の勉強会等で理念に触れるようなときがあれば、管理者と職員で確認し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へ配布する「ならわの家だより」、家族会や地域運営推進会議のレジメ、地域の方への行事の案内などに記入し理解を促している。		特に地域に対して、理念とともに啓発していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣人に招待状を配り行事に参加してもらったり、散歩中に近隣住民と挨拶をし関わりをもてるように、また認知症を理解していただけるように心がけている。近所よりお菓子などを持ってきてくれる方もいる。		建物に温かみがなかったので、玄関付近にベンチとテーブルを設置し、そこで交流できるように工夫した。その周りは花を生けたプランターで囲い、前の道路からも見やすいようにした。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人行事として例年開催している納涼祭に参加していただいたり、近くの保育所から招待を受けたりなど交流に努めている。また中学校の福祉体験学習を受け入れている。		今後は地域の老人会などに参加することで地域へアピールしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は年1回、法人で行う在宅介護者向けの講習会で、認知症及び事例について伝えている。また中学生の福祉体験学習を受け入れている。		今後は、必要に応じて相談を受けたり、会合などで認知症ケアの啓発に努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施。さらに、それを基に勉強会を実施。そこで外部評価の意義を確認し、また取り組んでいきたい内容を検討した。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを決めて話し合いを行い検討している。7月に前回の外部評価の結果について話し合い、9月に今回の評価の説明を行った。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議は毎回出席していただいております非常に有意義である。しかし、それ以外は電話で連絡を取り合うことが多い。		地域密着型サービスとなり、連携する機会は増えているが、さらに関係づくりを強化していきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1F入居者で成年後見制度を利用している方が1名いるが、その対応は管理者及び1Fのユニットリーダーであり、勉強会等は開いていないため他の職員の理解は低いと思われる。		ユニットリーダーは、11月の権利擁護の研修会に出席予定。職員には勉強会等で理解を深めるようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会はないが、職員の対応が虐待とならないよう、ミーティングや勉強会で確認し、防止に努めている。		今後、高齢者虐待防止関連法について勉強会等を実施し、理解浸透に向けた取り組みを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談時は、ホームへ来所いただき、重要事項説明書での説明はもとより、ホームの見学をしていただきながら、環境や取り組み状況などを十分に説明したうえで契約している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に1度、市から介護相談員の訪問を受け入れており、入居者の相談にのって頂いている。勉強会等では利用者本位であることを管理者から職員に伝えている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「ホームだより」を発行し行事等について報告している。行事等の写真はホーム内に掲示し面会時に見ていただいている。心身状態の変化は状態により電話連絡するようにしている。金銭管理は月初めに現金出納帳に家族からサインをもらっている。職員の異動等については「家族お知らせ版」にて伝えている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年2回開催。職員は席を外し、家族代表の進行で意見等について話し合いを行っている。そこでの要望等については、後日「家族お知らせ版」「ホームだより」にて報告している。また、家族代表は運営推進会議も出席頂き意見を述べて頂いている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者が月1回個別面談を行い意見を聞くようにしている。ユニットの話し合いでの意見は、管理者・リーダー会議にて議題として検討している。</p>	<p>今後、改善提案書を作成し、職員からの意見を反映できるようにしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中は3人から4人の勤務者を配置し、柔軟に対応できるようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には各ユニットの職員を固定し、入居者に対し環境を変えないようにしている。離職や異動の場合は引継ぎ期間を万全にするよう配慮している。ご家族へは、家族会、運営推進会議、「ご家族お知らせ版」で報告している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者が職員入職時にオリエンテーションを行い、地域密着型サービスについて説明している。月1回の勉強会では、質の確保、向上を目指している。また法人内外の研修会に参加できるよう配慮している。入居者にとってより良い介護が出来るよう日常的に職員同士が話し合っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>10月に千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会への加入を検討しており、その研修等に参加することで閉鎖的になってしまう視野を広げることを目指したい。</p>	<p>市内にあるもう1ヶ所のグループホームとの交流をもち、見学や事例検討等を行いたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月1度の個別面談時や気づいた時には声をかけ、話しを聞くようにしている。昼休みは休憩室で休憩がとれるようにしている。</p>	<p>他のグループホームとの交流や親睦により、気分転換が図れる機会をつくりたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は利用者と話しをして過ごす時間をもっている。人事考課は年2回行い職員の評価をしている。また職員からの意向調査を年1回行っている。健康診断は当直の有無に関係なく年2回実施している。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があったときには、管理者、介護支援専門員及び計画作成担当者(ユニットリーダー)が面談し、ご本人の理解に努めている。入居前には自宅へ伺い、環境面も含めた確認を行うようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の苦勞話をきっかけとして口を開いていただき、時間をかけて今抱えている問題、家族・本人の希望、現在の状況等を聞きだすようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のなかで、家族の思いも聞きながら、自宅で介護するうえでのアドバイスも行うようにしている。早急な対応が必要と判断した場合には担当ケアマネと連絡をとったり、または他の事業者の紹介を行う。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に見学をしにきてもらったり、職員が自宅へ訪問したり、入居間もない間は家族との連携を密にし、電話や面会を依頼している。		家族の意向との兼ね合いを図りながら、短期入所の利用から開始することも検討する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事やレクリエーションの時間等では人生経験等自ら発言できる雰囲気を作り、また個人の得意分野をさりげなく支援するようにしている。理念の“なごやかで”は、大変な時代を生きとられた人達が心穏やかにのんびり過ごして頂きたいとの思いが、“らんらん楽しい”とは、毎日みんなに笑って過ごして頂きたいとの思いがある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は近況報告を行い、変化があれば電話で伝えるようにしている。またサービス担当者会議では家族に出席いただき、現状の様子を説明しながら本人・家族の要望を聞き取るようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に1回以上は面会に来てもらっている。年2回の家族会は、「母の日会」「敬老会」の行事を兼ねており家族も参加していただいている。その他の行事や誕生会にもお誘いの声かけをしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から聞いた情報により、昔住んでいた場所や馴染みの場所を聞きながら支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶の時間は職員も一緒に会話をするようにしている。状況により座席を変えて、孤立することのないよう、テレビと一緒に観たり良い関係が保てるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時に、退去前連携情報提供書を作成して情報の連携を行っている。法人内の老健施設で行っている文化祭や新年会の行事に参加したり、また職員が面会に行ったりすることで、法人内の他事業所へ移られた方との関係が維持できるように努めている。		今後はサービス終了者に対し、行事へお誘いすることを検討したい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりなかで、表情などから本人の思いを探り、対応するよう配慮している。またサービス担当者会議では家族を交えて検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話のなかでの思い出話や日常の会話、相談時やサービス担当者会議に家族から生活歴を聴き取り、また利用開始前には自宅へ訪問し生活環境を確認し、過去の暮らしぶりなどを把握し、個性を生かせるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日報を記入し、バイタル、排泄リズムや食事・水分量などを確認している。残存機能や心身状態を把握しつつ、本人のできることに着目するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、職員を含めて話し合いを行い、意見を反映させた介護計画を作成している。		本人も話し合いの場に参加することを検討する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族等の要望を踏まえた介護計画の見直しを、期間ごとに見直しを行っている。また状態や介護度が変化したときは都度見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子や本人の言葉を記録し、情報を共有している。管理日報では、バイタル測定、食事・水分量、排尿・排便、体重等について記録し、計画に反映するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活かして、早期の診察、対応により重度化を防ぐことができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人に施設向上判定委員会があり、教育長、区長などの地域有識者に出席していただいているため、そこで交流をもちながら協力をお願いしている。地域交番の方にはホームの存在を気にかけてもらっている。消防は年2回消防訓練での協力あり。		今後は民生委員やボランティアの協力を検討している。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問の理美容サービスを利用している。地域のケアマネジャーやサービス事業者との支援はない。		ボランティアの支援を利用し、本人の意向に沿った対応ができるようにしたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	平成19年4月に地域包括支援センターが開設したため、まだ協働はできていない。		運営推進会議への参加を検討していただきながら協働できるようにしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時に、医療連携加算の説明を行い、緊急時や24時間体制であることを考慮し、法人の医療機関を選ばれている。往診を行ってもらったり連携がとれていることで家族は安心されている。眼科等の他科受診は家族同行で受診していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携している病院で個々の対応ができています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携している法人内の病院より、毎週看護師が巡回訪問のため来所し、ホームの介護職員とも連携をしている。必要時は医師へ上申していただいている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関に訪問し、情報交換をしながら退院支援に結びつけている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化された場合に関する指針は決めているがまだ実施はしていない。		今後そのようなケースが発生したときのために勉強会等で確認していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開設当初は末期ガンの入居者の対応をしていたが、痛みや出血を伴い病院へ入院となった経緯あり。看取り介護に関する指針は決めているがまだ実施はしていない。		今後、職員間での勉強会等でも取り上げ、終末期のケアについて対応ができるようにしていきたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活環境や介護の継続性に配慮はするが、書類や資料を作成することはしていない。		家族やケアマネジャーに情報提供を行なっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の尊厳を重んじ、声かけや言葉遣いに気をつけ、排泄介助時など日々の業務で気になる言動はリーダーや職員間で注意を払っている。記録の記入にも気をつけている。勉強会では意識向上に努めた。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者に声かけを行い、傾聴、受容、共感し、否定しない対応で自己決定を促している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日のスケジュールはあるが、個人の体調や気持ちに配慮し柔軟に対応している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着替えの衣服は、本人の意向で決める、またはアドバイスしながら選定している。理美容は訪問で対応しており、お店には行っていない。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の好み、旬の食材、栄養のバランスなどを考慮して献立をたてている。テーブル拭きやランチョンマットを敷いたり、箸を並べたり、調理、盛り付け、片付けなど入居者とともにを行い、また職員と入居者が同じものを一緒に食事している。外食やお寿司の出前も行っている。</p>	<p>食材の買物も一緒に行うようにし、またメニューもその日の食べたいものを考え、楽しみを増やしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつは、手作りにしたりなど、毎日工夫して日常的に楽しめるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、またサインに気づくように注意している。プライバシーに配慮し、個々に声かけを行い日中はできるだけトイレへ誘導するようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な時間はあるが、なるべく本人の希望する時間で入浴していただけるよう努めている。また入浴を拒む人は足浴を行ったり、環境づくりについても話し合いを行い対応を工夫している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、必要に応じ個別に休息している。光量や室温に配慮し、就寝は本人のペースに合わせている。夜間眠れないときは、温かいものを飲んで話しをしながら入眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	社会の一員であることを意識していただくため、出来ることは交替で行うようにしている。日々のレクリエーションで歌や体操を行い、他に行事、誕生会など、皆が楽しめるように工夫している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布とお小遣いは家族から預かっており、出かける際には出来るだけ本人に支払っていただくよう配慮している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じてもらうため、散歩やドライブに出かけている。玄関前にベンチとテーブルを設置し容易に屋外へでられるようにした。		今後はボランティアの支援を受けながら、もっと外出の機会を多くし、お弁当を持って近くの公園に行くなど配慮したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホーム行事として花見や外出、みかん狩りを行い、参加いただける家族とともに外出している。コンサートや踊りの発表会を見に行ったことがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきたときにはおつなぎし、プライバシーに配慮して会話できるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	椅子とお茶を用意し、ゆっくり過ごしていただけるように配慮している。表のベンチは面会時にもご利用いただけるスペースとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	計画作成担当者は、7月に身体拘束廃止研修基礎課程に参加、11月には専門課程に参加し、他職員に伝達する予定。日々の業務でも確認合っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出ていく気配を感じたり、出ていきそうになったらさりげなく声をかけるようにしている。		職員の見落としにより、外へ出てしまった場合には、地域の人の協力が得られるような体制作りをしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ場所で記録等を記入し、状況を把握できるようにしている。夜間も入居者を確認しやすいところで業務をしている。徘徊により他者の居室へ入室しないよう目配りをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	カミソリ等は希望時本人に渡し、居室とは別の場所で管理している。内服薬も一括して管理している。洗剤・薬品等は目のつきにくいところに置いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット発生時は報告書に対策を記入し、職員回覧し情報を共有し、再発の防止に努めている。法人で行う事例研究発表会の今年度のテーマはリスクマネジメントであるため、合わせてその取り組みも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についての勉強会を行い、手順は分かりやすく、そして大きくして掲示した。消防署の協力を得て、一部職員は普通救命講習を受講した。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、内1回は夜間を想定した消防訓練を、入居者とともにしている。非常通報装置や消火器についても説明を行っている。		実際に災害が発生したときのために、地域住民の人にも訓練に参加していただいたり、協力を得られるようにしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	束縛のない自由な生活を求めるがゆえに起こりうるリスクについては、家族とよく話し合い同意を得る、またはリスクを取り除くことをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調管理に気を配り、状況の変化は職員間で共有し、リーダーや管理者、または医療連携加算を取得しているため協力病院に報告し、状況により受診するようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日ごとに職員が仕分けし、服用のチェックを行っている。薬の説明書はファイルしてあり確認できるようにしている。協力医療機関より居宅療養管理指導として薬剤師の訪問を受けている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	管理日報で排便のリズムを確認し、乳製品や繊維質の食材を摂り入れ、散歩など腸の動きを促すように取り組んでいる。下剤が必要な人は、医療連携も絡めながら、量を調整してコントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は風邪予防のためお茶にてうがいし、自立を促している。夕食後は義歯を預かり洗浄している。法人内の研修会にも参加し、口腔ケアに対する意識が向上するよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理日報で食事・水分量のチェックを行い、捕食などで脱水には特に注意している。状態に応じ、キザミ食、ミキサー食に変更している。訪問栄養による管理栄養士の指導をうけている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の感染に対する取り決めに沿った対応をしている。ホームにて、職員は入居者と一緒に手洗い講習会を実施した。インフルエンザは家族の同意をいただき職員を含む全員が接種するようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁は毎晩漂白剤につけ、食中毒の発生予防に注意している。冷蔵庫内の食材は賞味期限に注意している。衛生区域、非衛生区域の取り決めを行い、職員は必要に応じ介助用のエプロンを外すようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が分かりにくかったため、看板を設置した。また壁がコンクリートのため温かみを感じられるようベンチとテーブルを設置し、その周りに花を生けたプランターを置いた。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は共有スペースにあり、臭い、音などで五感を感じられるようにしている。空間は木製品を多く使い温かみを感じられるようにしている。飾りつけは季節のものや、道端に咲いている花などを飾り、また行事のときの写真も飾りとしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にもソファや畳を置き、少人数や一人で過ごせる時間をもてるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅訪問を行った際に、家族や本人と相談し持ち込む物を判別している。愛着のある家具や人形、家族の写真や配偶者の遺影を持ち込んだりして自宅であるような空間作りに配慮している。居室には自分達で色塗りをした手作りのカレンダーを飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行い、臭いに対する配慮を行っている。起床時にも窓の開閉を行い、出来るだけ外気を取り入れ、自然の風に対応している。冷房使用する場合も約26～8 くらいに設定し、温度計を見ながら入居者が寒く感じないように職員が管理している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置してある。物干しの高さを入居者に合わせたり状態に合わせる配慮をしている。夜間ポータブルトイレを使用する方の照明に気をつけ転倒のないようチェックしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室や各入口には名前を表示し、さらに必要な入居者には目印となるようなものを付けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の菜園には収穫祭が行えるように野菜を植えてある。水撒きや草取りなどの庭いじりができるようになっている。玄関前にベンチとテーブルを設置したスペースは車椅子の方でも利用できる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービスとなり、運営推進会議や勉強会などでも、入居者が人として生きていくうえで、地域の一員となり、そのためには地域住民の力が必要であることを職員全員が感じ、理念を共有し、認知症の理解を高めていけるように勉強会等を行っている。

待っているだけでは何も変わらないので、こちらから積極的に表に出てアピールしていきたいと考えており、日々試行錯誤しながら取り組みを行っている。今後は、隣近所、地域の方達が気軽にホームへ来て、お茶を飲みながら入居者と話しをしたり、散歩に行ったりできるような環境をつくっていきたいと考えている。運営推進会議は、メンバーを増やして協力を得ていきたい。また家族会では、今年から家族だけで話しをする時間を設け、とかく閉鎖的になりがちなホームに対し、家族の目線で資質向上にむけた話し合いを行い、要望やアドバイスを頂いている。

医療法人のホームであるため、医療連携加算取得により24時間の連携体制となっており、状態の変化には医師、看護師による早めの対応が可能である。

1F中庭には菜園もあり、庭いじりが好きな入居者は喜んでいただいている。

1F、2Fの2ユニットで合同で勉強会や行事を行い、うまく連携をとりながら切磋琢磨している。